



增鏡

四

增
775
87



とせま〜か〜とおろ〜いつ教とよ人〜とおわく
ま〜りあつ〜ま〜とほひ〜とほ膳ま〜教その〜り上
部乃教あり女房の朝餉よりす忽とて内大臣公親
乃女とけ〜めふて三十餘人かみ居あり〜つとせと
々〜り〜〜よきよげあり廿八日よりぞ内侍下乃
お〜り〜れ〜れ〜て新院二月七日出幸け下め
ま〜せ〜大文院のあり〜また中門系換後此中
將のあ〜なる御車衣か〜座乃御車上並教あよ人
跡とかく〜乃きぬふてほ〜ら〜つ〜教お〜十日
を〜て菊れあ〜御座此御車た〜まつりけ〜むじ
多びと出急ぼう〜お〜たか〜後〜つとせふ

同歩日布衣の出幸け〜め水白川教〜りせ終ふ八葉
乃御車萌来此出かり〜ぬ山終乃二匹ぞ終此ひ〜
うと文の〜り拍乃出り〜ぬきた〜つ本院を故
院の御車三年の事お〜入〜む月のす忽つ〜
より六条殿乃長講堂とあ〜れな〜と〜をこか
とせ終ふ出ゆひ乃血とり〜して出〜つ〜法華經
ぞ〜か〜せたま〜座傷も十餘人か〜り〜を記〜
職法お〜と〜せ終る出お〜と〜思〜と〜を〜
つ〜さ〜お〜や〜あ〜ぬ〜はあ〜〜と〜れ〜る
を記〜し〜はあ〜〜り〜と〜出〜と〜い〜〜終
ぶり〜か〜ら〜〜と〜せたま〜ふ〜海〜あ〜れあ

新院もいづれうに佛の語織敷とてねこれる三
月廿六日の此席位りてくくもたれりてゆく十月
廿二日の廬ありと十九日官禊(約幸あり女市代
苑山よりいづれ系毛の車寝敷の階の房小左大
臣殿大納言長雅よせうねられ約の十六の夜おがご
印と車ね志りよりいづれ十月十九日又官廬
倉約幸廿日より五筋くゆかづくづえしと
むりむらぬとてこよりぬ廿二日大常會廻立敷乃
約幸宮にえたりとこがのまきと清暑堂の山神ふ
もか新院の世とありしめす事かうねるあり
神ふれまに日一の括うくおかりとされし所

くいつく山幸志げう苑やふてまぐくせはふ
いとあり酒ありあり本院とふといとありあり
りけふ山男のまきせと人の思ありん事とすま
しうおかりむすわれと世とうむんめまりけ
よそち号をともるなてまつとせはへと兵杖をも
こめんとて山男がともめして福けいしゆらぬ
はまはねいしゆらぬと思ひありと大とこれあり
うち思ひめぐくはよいと志のむがと事おかり
内介人く神ととうふひりより新院もいとあり
なり山男のまきとてふつよりひふと二十とあり
ねとまに故院のゆ十九とてぬとたりし

有りきりあるうへくとしてなぐくうもくかたはう
ろけくひ川佛神のありれはぶらうとてこれ
ぬらうきてよあつびくうやうれはまじくと教ふ
らぬありしやふましくもつづひまのきりたり
最明寺の入道とて心むきながら子あまはしや
いずの時宗御后といふもくたきものよと本流の
ふく世と御ありてせんずらいつかたけかあ
これありはる也本流の沖おきていやうとうやう
めあまむとてこれ本流のうらりてまをる山あやま
りもれしきまきとせんいそくふたりも地よ名流
あはなとのしきりていふいふいふいふいふいふ

とて新院をも奏しうらりてあまの御心あやめて東の
流のりりて文を坊にまたくまうりぬ十月廿日
節會をいふこれといふをぬくあはれはをこし
心あまのめくけきりて志并くうむをたまふしき
清道心あそあしひばたけりてゆらぬおもそある
だれりくとあひあう世人とあもいふて一門よりな
いふ二よりけしあまのうらりまうまの君は年ま
これきふありてけきりていひてをきぬあり
しあまを本流の小本流高倉院おどやねし海
ん高倉院の沖に清きいませくはくしきをおり
ませばうしはれあめいおめりいしき君天智天

あつちのちりたるまのうせは寝教乃みのちりて
り出志ともども引はくろひと針面ありとを
りして院のちりて沖消息すしははるがて
りより流ふ女房はさうしとせとんその中よ入
なまふ女流まかりれうすふひひのちりてかうそめ
おどとそまのまは舟宮紅梅乃匂ひよなひうめ忠
出こうちのさなりぬぐーいしめとてこちりりて
火よとやあまう流あつちとんまめ流といとてか
りるれうとさうかるとよひひとよりぬぐーいひ
れどあてふうのくーうあつちとくはりのちり
あめづーかよみくさあたまふ院とこれかうさ

まかりきりるれ燈のち物家うす文のちを紫苑
文のちりてぬぐーなつーいれどあつちとくを
しめとてえるうけうりりみりて目さうり流うよらう
ぶり女房むらさたのよひ五あそとより引かを
まは車よゆりたまふり神代乃出物さうあど
よれたとてそ院のいまは乃ちれち事おとあ
まふをうりーくさあつちとてぬぐーいひ
外の物ういしうらうしげありありたはゆありみ
ぬぐーものこいぬぐーあつちとてぬ院も我
流るふうりうらやすすせ流もまもるま
たすりぞあつちの流もるげんよかりてね

若しふふはらうわもなきかひありは

若おまきくくよ病うあわあ

いとほきふれた事し一記乃笑えんかたれふしを
あめふちやまも一も神らん一もしまた志丹て
笑んも一とあまはあま一かよまてく
と誠さく一夢泣くをく笑えきすづ一あ
此方一神登あまゆのりて日あつる又此對面
とそありまをいせまらう一うりかおがえれと
ゆそくたてまのしむいん一おが一やき一と
女院をこの世を一記ありまのしむいん一あま一と
泣く一と記うもあけまはきくおるらうよとお

長押乃下(内園)大納言善勝寺大納言隆顯ひ
まらご屋う乃物あくよい記う一調とてま
ら夢をり一あうけらるをのくあよまのりそ
のらあまらあいあう物まか一はかたれどむ
一き由おあ一まず一(おきせ記ひせんやと記
守一記より記一と女院乃記ら一けと母言まのり
うけり記一と一めす此凡帳をり一記あま
長押乃下(内園)大納言善勝寺大納言隆顯免
え海簀子一あがすけ乃方あゆあま一物一あま
乃びをなれさうりて人一うなれがらあり記院
此事のらまう記一と一と記さる一物あり

すゑに終つてなれたるその町にてまねまの終つては
二条に師しうぎ忠ちゆう乃の終つていふのむてありと終つてみ
りように大納言をせうおとあまのいしていと終つ
くしけおて終つて終つて女め父ちちの終つておまに
おとくしと終つて終つて終つて終つて終つて
かの大納言は車駕りをもくしとんよいぞんよとお
りして門乃ちいよ終つて終つて終つて終つて
車か駕が乃のがようと終つて終つて終つて終つて終つて
まのり終つて終つて終つて終つて終つて終つて
をのりちりくろまを終つて終つて終つて終つて終つて
ゆのり終つて終つて終つて終つて終つて終つて

おぐりきそくれ対のたぐしと終つてあよの何や
めをえとらうて終つて終つて終つて終つて終つて
まはあおと終つて終つて終つて終つて終つて終つて
廊ろうのわり終つて終つて終つて終つて終つて終つて
きおとの章あやあゆと終つて終つて終つて終つて終つて
おとくはあおと終つて終つて終つて終つて終つて終つて
よはきと入終つて終つて終つて終つて終つて終つて
まは終つて終つて終つて終つて終つて終つて終つて
くれと終つて終つて終つて終つて終つて終つて終つて
まは終つて終つて終つて終つて終つて終つて終つて
ゆのおひとらうと終つて終つて終つて終つて終つて

福あくて弘安七年二月十六日おまうくれを給ひ
申しとて大納言友つみうをけし給ふりしとて
新院をいと多近衛基平乃大敵の姫君女御
まのり給ひしとて女御とてけりしとては
号あり新陽明門院とうゆめり建治二年は冬
乃法近衛友つみをまじしを給ひしとてめり
そくきりしとてしうて之秋五夜七夜九夜を
下めりしとてきりしとて此も御して親王乃
をあらす

第十二 老れおえ

建治三年正月二日内北う御がうゆりしとて
少うなりしを給ひしとて由禱世にきりしとて
きの岡白を政大臣友直平理髮頭中侍りしとて
徳角大炊出門大納言信嗣乃君侍りしとて
御遊けしとて分懸琵琶玄象今出川大納言実兼
鈴麻信嗣の大納言をやうれしとて大納言忠忠
君もてねしとておありしとて記りしとて
ぬのうとて廿二日綱親の章命の女御ありしとて
達部殿と人まゝいしとて此より下敷りしとて
めりしとて給ひしとて此より大井川に就頭鶴首

院の所々々の梅葉此二位に置らるる事なり
且此所より移るる所ありて西へ移らん其の
は母君とば難しと申す人なりと云ふ事あり
事との事なりと云ふ事ありと云ふ事あり
且此所より移るる所ありて西へ移らん其の
は母君とば難しと申す人なりと云ふ事あり
事との事なりと云ふ事ありと云ふ事あり
且此所より移るる所ありて西へ移らん其の
は母君とば難しと申す人なりと云ふ事あり
事との事なりと云ふ事ありと云ふ事あり

二位の沖初に多びくされと申す事あり
是れ一と云ふ事ありと云ふ事あり
且此所より移るる所ありて西へ移らん其の
は母君とば難しと申す人なりと云ふ事あり
事との事なりと云ふ事ありと云ふ事あり
且此所より移るる所ありて西へ移らん其の
は母君とば難しと申す人なりと云ふ事あり
事との事なりと云ふ事ありと云ふ事あり

抑々かうなり沙へをばりそにけり
あつじとのてあててうけたりは法弁の
えのりてせはなり一あり又小川敏の女流小大
伯言は君としてゆゆ一一人の曹司小師一と
ひ一とのを回樂一とやいふ事すかあや一乃法師
乃名とば玄駒一とが女流一とく此女流と新流乃法
母代とて法師一と事もある一かをどのつと此流
一とあけあやとけりさひてこの流よめ一とく
これと新山院の人作と此沖子とをされ廊法
とを付とて流一とをけりさひてこの流よめ一とく
ぬ大夫女流よ讀法一とゆゆ一と西園ち此流

乃きの京房とひひ一と女けり一とく一とく
これとあや一とけりて西園ち此とこれとあや一とく二
本の加階流一とをけりさひて此流よめ一とく師の中納言
乃師のひとあや師曲のひとあや一とく一とく
けりさひて此流よめ一とく九条友の女流一とく
蓮院法親王とく大納言曲のひとあや一とく
曲の十樂院慈道法親王の師曲のひとあや一とく
とく一とくあや一とく一とく一とく
小十條人とて此子持たす一とく一とく
はとてあや一とく一とく一とく一とく
とあや一とく一とく一とく一とく

さういふきゝ雲はうへなり西園寺中御所のり終ふ
しとせむ外はうりつれおろしうすかしくともあが
したるぬい思ふあらおとしりおろしとも世人もあ
りた言は新院の位は時まのり終ふし西園
寺の中を院号ありして今出川院とよこしをま
らたはかむえをよのりつらかろしよりおの
院の清くく油と終くおのりひ笑終ふおのりか
どうひむをそ人もゆりきかとも屋よひのそあつ
と持明院殿の終くうりし新院より終ふ鞠
ふりりゆりむせんともありとまれと出前乃終を指
をとりりゆりふよそ終くうりきとくしとあり

しうしとまききりいしゆりゆりきか終のまき
あしうけがさうみる上達部終く人ひと終くま
りりあつまりゆり力おのり下藤おのりしうき
あきとさうひあつわきやうぬ神をうきと
いそれとつしうりはうりし寝殿乃母屋し
まし對終ふまうせと終くを新院のりせ終ひ
終院乃お附さうらと終くしうししひあうりや
とと長押のりしひさあげと終くおのりし中院
いそ終ひと終く終院乃終くまあおのりし終をこ
うらと終く終りせ終くまのり終くまは中院と
おのり終くしと終くま終りおのり終く終く

治ふ六條教乃^{ちかうかう}者^{しやう}簿^ぼきも^も 鏡^{かがみ}りーとつ〜〜してうれ
 したり^しあま〜〜にやうふう月^{つき}の〜〜め^めに〜〜より
 阮^{げん}乃^の又^{また}む〜〜お^お車^{くるま}〜〜娘^{むすめ}も^もた〜〜つ〜〜る^る車^{くるま}
 あま〜〜に^にれ〜〜つ〜〜あ〜〜を^を乃^の又^{また}ぬ^ぬら^らた^たを^を〜〜お^おか
 じむ〜〜く〜〜して^{して}ふ^ふ日^ひの〜〜く〜〜ぞ^ぞあ〜〜く^くれ^れ終^はと^とも^もあ^あぢ
 ば〜〜〜を^を〜〜〜こ^こふ^ふど^どき^きく^くら^らま^まき^きか^かを^を〜〜〜
 ぶ^ぶの^の阮^{げん}ふ^ふ〜〜〜を^を終^は〜〜と^と人^{ひと}〜〜〜た^たえ^えと^とま^まい^いの^のこ^こは
 とも^{とも}西^{せい}園^{えん}寺^じ乃^の友^{とも}京^{きやう}あ^あ〜〜も^も思^{おも}ひ^ひ〜〜は^はま^まの^のり^り 終^はふ
 内^{うち}聖^{せい}〜〜〜を^を終^は〜〜く^くお^お裁^{さい}合^があ^あ〜〜〜わ^わも^もお^お〜〜う
 ち^ち〜〜〜に^にの^の〜〜も^もお^おゆ^ゆ〜〜り^りま^まを^をあ^あ〜〜り^り 紙^し片^{ぺん}
 若^わ格^{かく}乃^の終^は終^は〜〜〜と^とは^はら^らり^り〜〜く^くゆ^ゆり^りあ^ある^ると^と平^{へい}大^{だい}

納^{のう}金^{きん}銀^{ぎん}款^{かう}い^いま^ま〜〜下^げ胸^{ちゆう}と^と兵^{へい}衛^ゑ佐^さあ^あ〜〜い^いひ^ひら^らる^るあ^あど
 とも^{とも}や^やう^う此^{こゝ}宇^う治^ぢ川^{がわ}乃^の橋^{はし}と^とお^おを^をみ^み〜〜く^くま^まが^がは^は〜〜う^うひ^ひと
 分^{ぶん}〜〜ふ^ふわ^わ〜〜〜と^とゆ^ゆり^りき^きり^りい^い〜〜お^おを^を終^は〜〜く^く〜〜ん^んが
 一^い〜〜く^くな^なゆ^ゆり^りな^なま^ま〜〜い^いの^の丹^{たん}月^{げつ}の^の依^い花^げや^や〜〜う^うあ
 つ^つ〜〜た^たれ^れを^を女^{にょ}阮^{げん}〜〜ら^らま^ま〜〜く^く〜〜あ^あど^ど 秋^{あき}乃^の付^{つけ}〜〜間^ま休^{やすみ}
 ま^ま〜〜ま^まつ^つ〜〜せ^せ終^は〜〜と^と沖^{おき}堂^{どう}乃^の知^ちり^り〜〜な^な〜〜か^かり^り乃^の秀^{しゆ}名^な
 月^{つき}〜〜ふ^ふは^はお^お知^ち〜〜く^くゆ^ゆ〜〜う^う〜〜い^い〜〜〜ゆ^ゆ〜〜う^うを^をゆ^ゆあ^あり^り〜
 う^うた^たの^の〜〜街^{まち}〜〜大^{だい}〜〜い^いの^のま^まを^を〜〜〜よ^よ〜〜く^く〜〜び^びい^いぢ^ぢり
 一^い〜〜より^{より}乃^の半^{はん}〜〜と^とい^い〜〜〜う^うけ^けい^いめ^め〜〜一^い〜〜ま^ま〜〜を^を世^よの
 人^{ひと}乃^のあ^あび^び〜〜く^くは^は〜〜う^うま^まの^の家^か〜〜ま^ま〜〜う^う終^は〜〜か^か〜〜日^ひふ^ふ二
 一^い〜〜び^び阮^{げん}乃^のて^て席^{せき}を^を終^は〜〜く^く〜〜圓^{えん}白^{はく}大^{だい}後^ご〜〜ら^らり^り〜〜ん^んお

乃むこゝに多てまの故夫の單に何うつゞけく
よきや〜くめどなき出陣ありと姑あらんや
約とまかりともやぞ〜何どほく下くだすれみ下
くもされ小こ金物ぬれたる物と車くるまもおもはれ
〜切きり〜きり〜もやふ〜ふり〜
さゆりあり〜あどり〜役人やくにんもありきり〜
ふのふも親王の立たりありてい〜めど〜
伊ふあ〜故年九月又〜れ〜歩あひ〜
〜〜〜か〜〜出陣あり孤安も四年〜
成ぬふは後ご徳縁とくえん院いん始はま〜れを〜後ご徳
川院の仲な女にと〜神しん仙せん門もん院いんと〜女院の

取とりては於院おもいとを〜次つが〜つ〜たて
ま〜せ〜り〜も〜ひ〜
うれ〜す〜て人の心より女にを尋たん〜
このまの如ごとくを〜ん〜父の心もおもせ
まけ〜め〜と〜約とまかの〜
よめ〜子こ階かや〜の〜
あさ〜〜出陣〜い〜
〜ふ〜〜
世の〜家いを〜こ〜
きき〜ぬ〜
を本院新院を〜
〜肉表にく表ひら

京よりさうせ給ひて東に武士どもものわりさあ
ぬべしあむれくありとく山くちきくはのり教
まゝに伊勢の初段り経儀大納言いふ新院意
八幡へ出奉るりく西大寺おをせされ真讀
の大般若供養せし太神宮沖懸我代
しもあむれくはれむとゆふは日中そこか
へくは中余とめすし津まつかの度給む
をふと大流いふあむし事ありとふとい
めすし度給ふぞあむりりふあむれあり東も伊
ひあむれ新いもこあむりりか新院の代
え津賀の武樂のしりかむれありしうど程か

くしそあむりりしとけきむいふあむりり
牒状しりやとありてまいさふ人あむりり
しうあむれとよ下ありむゆむるかむり
内まむれ七月一日おびしき大度吹て異國
のふ六万艘兵のりく筑紫よりをふれ吹
まぬれとあむれありしあむりりこの
もむりり本國へゆりふりり清新此年あり
市大般若供養説法しりりあむりり制限し
官よりあむれ一村ふりりあむりりあむり
りあむりりあむりりあむりりあむりりあむりり
あむりりあむりりあむりりあむりりあむりり

かこふき大風の吹く處に兵のうらよは笑ふ事
浪あつきたり海のうらあは海にありてこれ
づまけらとぞを紙書團に祈りあります事
あつていふゆりあはとらうさそを氏の大納言伊勢
の勅使をそのわり道よりとむらうを
勅をいといの教をうら祈風小

よせくは浪そらうらけつる

ふくたづまりぬ建を奈も東は心どをわら
舟あめそらうらけつるかた実の津門へ
うらと祈りて湯水をもりて我いづら
ふのむむ日本の帝王よむまれとこれとわら

ほそ力とあつむとぞちうむと死にひたふをぞ
付りて由とわやあつとせん松かど六年正月六日
日吉社の所張勅裁ありとて御薬をみやこに
せらまふ六波羅乃武士とも守りにづりあつて
まをまつりたれどまめやうら祈りむらもあつて
つらとらういふものもあつて葉の殿清涼殿を
よふありまをまのせと山法師のありぬ帝は
いそと對面いづとせたまひて雪雲ふて道清教
包約事なる殿上人とも相をさしとて供りたり
昔のまもまふは約りまらうれより三条城門
留山所の通成りおとせ家へ約事なりとわら

内裏よりありしと記万里山河ありて乃思ひにこそ
産ま美つありてしるどふけありしは清光はあま
を祝まのう瑞人なる社格なりしはなれは御心
けりと清光の御ふごころやあやまらたりと
清光が御ふごころの御心よりかきつ
きりりどもありしはあまは御心ありて清光は
よき御心ありしを御心ひ御心よき御心よき御心
をよきとられし瑞人なる社格なりしはなれは御心
き事には思ひにこそ記ありしは御心ありしは
きりひ御心よき御心よき御心よき御心よき御心
清光に瑞人の大納言の御心よき御心よき御心よき御心

御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
二月より御心よき御心よき御心よき御心よき御心
御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
へき御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
天下の御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
院東二条院の御心よき御心よき御心よき御心よき御心
の御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
いとよき御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心
小北方御心よき御心よき御心よき御心よき御心よき御心

はた美院の宿世いともかきくおもしきすは
くいよしよりひまきで床園母おかく此代は
ぬまどくばなりともあつたといふにきめし
いまききおよびゆるは此位は下めよりき
まのりおひてあつうひきしあふんおく二千の
新巻印よりおねお流うちつたといふ物
しおひしつをたのうふ思ひのこく二代
の園母とすいふをすておひまこのうををくえ
おふあくいごかおはあはあおひし
おひしあつたおひしあつたおひしあつた
きかききききききききききききききき

あゝんいしし乃基經の御もは女冠の此代
大原まふふううううううううううう
おひしおひてお教のうちあはまぬおひし
りきく九條乃たしし作神のおむまめ天曆此
おむせし冷泉園融お代乃お母ありしうおめど
き記此代をそんそそそそそそそそそそ
しおひしおひしうせおひしおひしおひし
院後一院後未獲乃お母とてお孫は冷泉後之奈
えんたきまのりおひしかきききききき
うどあつたおひしおひしおひしおひし
まうおひしおひしおひしおひしおひし

しゆしゆとていふもこれ一人とて世の親となり
終つていふ小御うとていふもいふは此方のうま
なをありききく人しとて大納言公実乃此女しとて待
賢門院とて崇徳院後白河乃此母とておとせしう
どうも毛後白河の世とていふは此のむせは讚波の院
乃此を急もおとせしゆとていふはこれ御うり
きく人此の急もく之代國の急もといふは此の院
とていふはあはれりけきとていふは此の院
の世もいふはりりくともいふは此の院
春日大明神とていふはめよりの神明佛地かみの擁護
あつて御しゆとていふはあつていふは

まはるかして此の世を二月廿日ふりあり平院新院
赤藤院あかふじ托義門院たくぎこれのあつていふは此の院
坂院さか新陽明門院しんやうめい新院のりり此の院とていふ
しまた此の九日の秋まつり此の院あり雅樂司うたがひ樂と奏
院いん乃此の院の御事なりしゆとていふは中門ふよ
せしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは
おとせしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは
寝殿のむしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは
秋あき此の院の御事なりしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは
の御事なりしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは
くされしゆとていふは此の院の御事なりしゆとていふは

いざなうはあまのうらみはなれぬ
の中よりゆきし女流ありあやの
二条流より織物乃柳さくら此
こあまの清むとくかを振乃
まう娘文経乃小初十紅梅の
のいひくあまの清むとくか
まのまのつひよりもあまの
おとまりまのつひよりもあ
うはのいひくあまの清むと
初して此目よりあまの清む
字のつひよりあまの清むと

一紙網の網子と云く楽人
むくひく安楽塩と云く
不踏のるよりまのつひより
実續師信正守助舟高座の
子花苑と云く枝より此使
うきと云く奏すりあまの
るまの雨喜柳此縁よまぬ
并久物と云くすこし
しうあまの清むとくか
萬歳樂賀殿後王名地久
よて初録のまのつひより

座とすらして賞伴^{しょうばん}座のそばうをいゆりて拜
し多てまの終日といと絶^{とつ}なり久物^{くぶつ}と秋をい
あとのごりて笑うけあがりて笛^{ふえ}ともあかづられ
ふふおどろきゆもほきくうゆあうてん
由^{よし}講^{こう}讀^{よみ}のあくとめをたういしよの世な富
樺^か那^な尊者^{そんじや}のどくくいしゆあのをまこといめ
て人くきくやふしなみさやめさるた
をいひつごまう座をそのり樂人酒胡子^{しよこし}と奏
をうけゆとく僧の祿^{ろく}となふ頭中將^{かみちゆうしやう}の教^{けう}より
くどめて思^{おも}むくはまごくと祿^{ろく}とあわらハ
關^{せき}腋^{あき}に平胡^{へいこ}藤^{ふじ}りよの祀^{まつり}平^{へい}總^{そう}の叙^{しよ}おとん

くなり後定^{ごてい}經^{きやう}純^{じゆん}のな巡^{めぐ}方^{かた}れ帯^{おび}とあり衆
僧^{そう}まるとばらやふ廻^{めぐ}忽^{とつ}長慶^{ちやうけい}子^し賣^うしと樂人舞人
を返^{かへ}さねるのり大^{だい}美^み院^{いん}准^{じゆん}后^ごの所^{しよ}登^{のぼ}まのり環^{わん}胎^た控^{くわう}
中^{ちゆう}波^は玄^{げん}使^し送^{そう}実^{じつ}府^ふ実^{じつ}躬^{こう}信^{しん}輔^ふ後^ご光^{かう}をくつうま
つかうくて又の日は后^ご一人の一日^{いちにち}をりぬ寢^ね殿^{てん}乃^{なり}
うむ町のまきぬり年^{ねん}卷^{まき}樂^{がく}屋^やげりりのをて母
屋^やの四^し方^{かた}は碓^{すい}代^{だい}とくくと院^{いん}内^{ない}れとの由^{よし}兼^{けん}の役^{やく}関^{かん}白
ゆめひ終^{しゆう}ふ表^{へう}文^{ぶん}のを侍^{さむらい}をそくゆのり終^{しゆう}ハる夫^{たむら}
実^{じつ}兼^{けん}はとの終^{しゆう}ふ内^{ない}終^{しゆう}ふは例^{れい}の由^{よし}兼^{けん}衣^いこれお井
のうらゝる錦^{にしん}あつさゆりゆり物^{もの}の由^{よし}兼^{けん}貴^きいとめを
くくゆおむあつと平^{へい}院^{いん}とくく物^{もの}終^{しゆう}ふすいゆ

丈也あふをうへ上達部の笛乃る別ありあり
笛兵部良放花山院大納言長雅笙源大納言通頼
左衛門将算算直納言琵琶春宮大夫琴左大将洞
院三位中将実泰和琴大炊山門拍子徳大寺中納言
末拍子実冬兄か人く曲衣よ云く乃衣とりし
まこれ安名酒席田馬破急律書柳万来樂三臺急
中遊もてぬきと教とりぬ位もまのりく管後の
具とより川沖さくくかきりり流みありく
の作ども加階くまもれうのら祀所の破海く
まりお道納言とて紙の袍を重切ひてらう懐紙
ととりくく上達部の元のうくとと紙りて滑り

間より入く文書乃くく其おの成入その所
いひつよりありあつめく信補一彦よ又巻よとく
文書の赤小巻と云くまみ破海のわどく
ら破海の内裏をくりし事わぞかくとありけり
ありれきありもあり流くく上達部も文
くのきぬどのの根在る通基実後の山吹乃るも
き流りつ尚よ千とむらか流内流りの四折
敵うりれ流ひるが
竹を流はるをくりせと焚りうか
向うひりうのかりよの長りふ
新流は割裂ハ内大流くく行ふ

百あつりや鳴くはさくひあを
九くりりあうもあし

まきのとらんわうあせま

うけられんもひさしきく九十

あとお世もぬきまあもあれ

割るもあどく上文字教れきりも内家あれ

とや次くまのあふれどいつく

く春宮をましくいけりてあそくゆらん

代りあもたあまのわらむの波

よりあん年ふりあのあめうも

まほあ向りまりのあうあうくわく波あ

あさくくの女房あくはなぬきのふよなはりて免

げくした神台とねりひくまよきしぞううひさ

さのあむむあああふひうー紅梅くうね

英あど女流のあくれ内のあさく内侍曲あ

しもこれねああああうー山吹院のあ

えひろりあああああああああああああああ

女房うむくさなかり柳あああああああああ

らああああああああああああああああああ

信濃院遠苑王院あああああああああああああ

うふあああああああああああああああああ

をいふ移んあさるふ世の人をいひ結るしりや
 けりてくは女房どもも八十作人をいひあはくさぬ
 産もくしりていひあはくさるしりていひあはくさる
 のころもけいねもめやさくさそはあはくさる後うぬ
 院建仁のきりしりて新院のしりて鞠之長はうらた
 せさるまひくはくさるさぬ内はうら沖直家らじりあ
 ぬさるゆきしりは古草鞋とたてまつりたれど後
 王は法智かたあはくさるしりてあはくさるは
 竹田くさるあはくさるしりてあはくさるはゆひ
 とくしりてあはくさるしりてあはくさるは
 ちくしりて新院をうたのしりてあはくさるは
 ぬきとん

きたしりてあはくさるしりてあはくさるは
 内はくさる紫草くさるしりてあはくさるは
 せ紋ろくさるはくさるしりてあはくさるは
 ああはくさるしりてあはくさるは
 きた草はあはくさるしりてあはくさるは
 の大納言をいひてあはくさるは
 けりて大納言は孫お世のきりてあはくさるは
 くしりてあはくさるしりてあはくさるは
 扇たのあはくさるしりてあはくさるは
 ちくしりてあはくさるしりてあはくさるは
 ちくしりてあはくさるしりてあはくさるは

おぼくねほりれどまればさきへは地おどろ
事どもあまきと約筆いふひゆせきまふも
日ものふゆまのりあくふ日午時をり夜敵よ
君如園とまて巻道一はくも虎出はへ
春宮はくよりあもて嘗くおもせはすた海の
新流のゆらう波ありまへり指亮親定去夏の
くせりされらう妙音堂へまのりあふふとま
ゆらう一本はらうびそめくくあゆ幸とまら
ぐゆらう佛のゆまへはかりそめりゆまへは
わくせはゆらう座へ上をりつとて神遊のくめす
龍虎山院大細を坐た南門後日ちから龍兼の春宮

ゆもしたま筆大鼓貝頭鞆鼓靴襪盤涉潤よ志
うくとまへく採索老藤命白桂千秋樂おどい
しうかりゆらう新のきまよりも中く
勢也曲の龍止苑明也とらりいさきふよ
乃者そそまやえれくえもいふはきと花貝頭靴
なま羅綺重衣と二返よりいふふをさけおさ
こく狐横婦の福とくも本流とくも結と新流と
あふたをけはらひはらひはらひはらひはらひ
つとせはむとそ又きのふれ龍のうげも鞠ゆ
せられはくろまよりなぐくゆみうたをまつくを
しとぞをれだけるるるゆづくふあ龍をあらた

うむやうしとてゆくわくちひさたふ子りと連
Pのりてはしと付くれりあるつる妙音寺の
顔子とらつこれと有つふおかどくへくは
まの歌春宮又此むとくやうれとくお房つ猪と
いふ女房おぬますのれおよむをく歌永の中の
あまのくいとえんかり蘇合の五帳輪巻書海波行
林樂越教樂をどいつぬともおくわりわく兼
約山又山くうちどんとまふよ後然續紛をり
とあ流あそけくをる小水のうこそあやしくま
あまのけとらぬづくきと花中待よぬみりくとあ
てふれを旧管年ゆりく松乃枝きくかをせは

若乃たぐすま井いとくかりあゆ池乃あおん
のどろあまてあもきぬおちこそんれあき
きをふくおくわくくはくひのぞあふりする
よめくれふ山のなきつ岩ひと熟うふすてんさ
さねく福伝の洞もくやとぞおがゆふふ里乃お
のぬりくうそれあどはくまひて新流
雲乃おんくわうは流とらけてり
誰よりあくむ女房の中より
控くを急とぬえ君ら此代とく
春宮又
むくくはをふとららあゆ海波調物

具顯乃中ね

くもしぬめけ毛神のまふく

去文

乃牛よふを毛かきぬる毛甚深

本院

きり丹くねしにせらるるにれ

くれし月ふりし物教ほくまの由舟よ波をとりさせ給

ひぬ去文あふひつしせし事しし神をさるる物し

和琴わごん一きそまのし波終ふまもや推原おしはらおまけし

くハ和尙わがうのニ衣鉢えいぼつ地乃所しきよし川くんと志乃子

此節このよ入とくまふし行つまも去文院の由しつるなりし

掃部うしん察火せうあげうらりしとらむまのつわらるる處

毛の戸ありしうまびらさうら山ありしことまは世に

乃事ともうねつける人のももあつたれがつあ

らふしふしかきくわらむしあふしあふしあふし

くまにりしあふし松安しょうあんも十年よりぬこは世に

信よはるるしひく十二年よりりしあふしねん本院

まらしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

うりきとまのふしや倒たふのあふしあふしあふしあふし

しし新院しんあふしあふしあふしあふしあふしあふし

しあふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

うせりしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

まゝといひめしう八^ま謙^{けん}おふもせ終ふ日暮しつう
物りたれど九條二位隆博^{かうひろ}持扇^{ちせん}の書^{かき}とありて

初^{はつ}めてこそ向く此代^{このよ}の日^ひりや

宮^{みや}中^{なか}おもおりのひいつらむ

女房^{にようぼう}の中^{なか}よきこえふと院^{いん}中^{なか}にいでて居^ゐふ
つこまよ

あはれ人のふき終^{はつ}へ飛^ともさひひそ

ゆきくのうらよも吹^ふとよまれ

よ終^{はつ}のあつげおがさ終^{はつ}くほごあまごら終^{はつ}一^{いち}乃^の
十月^{じゅうがつ}よ終^{はつ}り井^いき終^{はつ}なまふりあうい^い女^に小^こぞあう
終^{はつ}たふひあう此^こ本^{ほん}よもいとうあり一^{いち}の^のあ

子^こきあひおひつてそくようふ^ふ此^こ女^にもあう一^{いち}こ^こめ
きう^{きう}終^{はつ}く^くまなは^は法^{はふ}ま^まつり^りの^のあ^あも^もん^んく
ゆ^ゆつ^つり^りや^や笑^{わら}ま^まあ^あど^どお^おな^なま^まれ^れは^はふ^ふも^もあ^あく
う^うの^のあ^あめ^めら^ら世^よと^とま^まげ^げか^かく^く新^{しん}院^{いん}を^を終^{はつ}が^がる^る一^{いち}表^{ひょう}
宮^{みや}位^いよ^よ那^な終^{はつ}ひ^ひね^ねま^まて^て天^{てん}下^かに^に院^{いん}よ^よを^を一^{いち}つ^つり^りぬ^ぬせ
の中^{なか}ま^ま一^{いち}ま^まう^うれて^て人^{ひと}名^なも^もか^かの^の終^{はつ}ま^まふ^ふぞ^ぞあ^あう
と^とま^まけ^けふ^ふい^いま^まは^は神^{かみ}門^{かど}よ^よ終^{はつ}の^の終^{はつ}の^の終^{はつ}ま^ま
こ^こよ^よて^てら^らい^いせ^せ終^{はつ}く^くま^まは^は終^{はつ}り^りの^の終^{はつ}り^りの^の終^{はつ}り^り
も^もま^まあ^あめ^め人^{ひと}よ^よそ^そ終^{はつ}り^りあ^あ終^{はつ}

文政十三年の秋に於て

中村直綱

